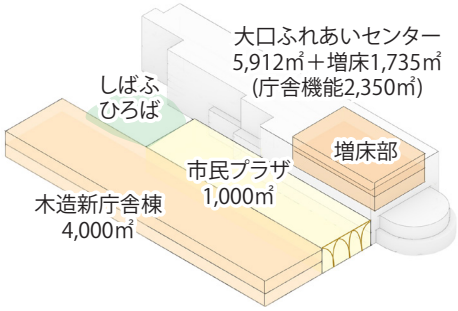
伊佐市新庁舎建設基本構想・基本計画を踏まえた設計基本方針

1. 既存公共施設との複合利用による新庁舎の規模最適化

大口ふれあいセンターの4層吹抜アトリウムを増床し、庁舎機能に活用することで新庁舎新築部の面積削減を行い、木造2階建てのシンプルで親しみやすい庁舎をつくります。

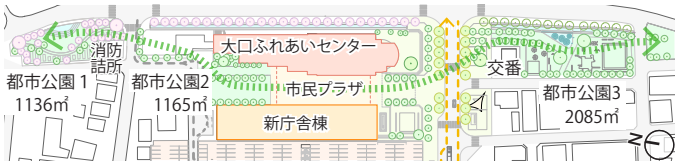


2.「市民プラザ」が形成する誰もが立ち寄りやすい庁舎

新庁舎と大口ふれあいセンターを、双方のパブリック性の高い機能を集約した「市民プラザ」でつなぐことで、誰もが日常的に利用するコミュニティ庁舎を形成します。

3. 都市公園の拡張と新庁舎が生み出す賑わいの軸

駐車場を2か所に集約し、消防団詰所北側と大口中央交番南側を都市公園として整備し、新庁舎を中心に帯状につながるやすらぎと賑わいの場をつくります。



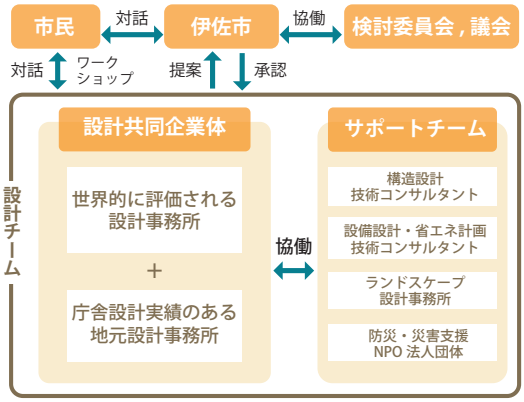
設計チームの特徴

■世界的に評価される建築家の独創力と地元設計事務所の地元力

各地で市民ワークショップを導入した公共建築設計実績のある建築設計事務所が独創的かつ調和性のある全体コンセプトを思案し、庁舎設計実績のある地元設計事務所が地域特性を踏まえた計画を立案し、双方の強みを最大限に生かすことで、その土地に相応しい市民の為の庁舎を提案します。

■様々な分野のエキスパートが設計共同企業体をサポート

全国に数多くの公共施設実績を持つ構造・設備・省エネ計画に長けたコンサルタント、まちづくり経験豊富なランドスケープ設計事務所、全国の市町村と防災協定を結ぶNPO法人団体が設計サポートを担い、安全快適かつ省エネであり、災害時に強い庁舎創りに取り組みます。



特に重視する設計上の配慮事項

■伊佐市民・職員と共に考えるプロセス

設計初期段階から定期的にワークショップを行い、市民や職員の多様な意見を汲み取り、設計与条件を確定、それらを基に設計内容を詰めていきます。

■目標スケジュールと設計過程の見える化

計画にあたり、いつ何を検討するかを明確にする「ロードマップ」を作成し、早期の与条件整理と各部署との迅速な合意形成を図ります。

■手戻りのない確実なコスト管理

設計初期段階から目標コストを設定し、各段階毎に概算を算出することで、適切なVE提案を行いながら設計に反映します。

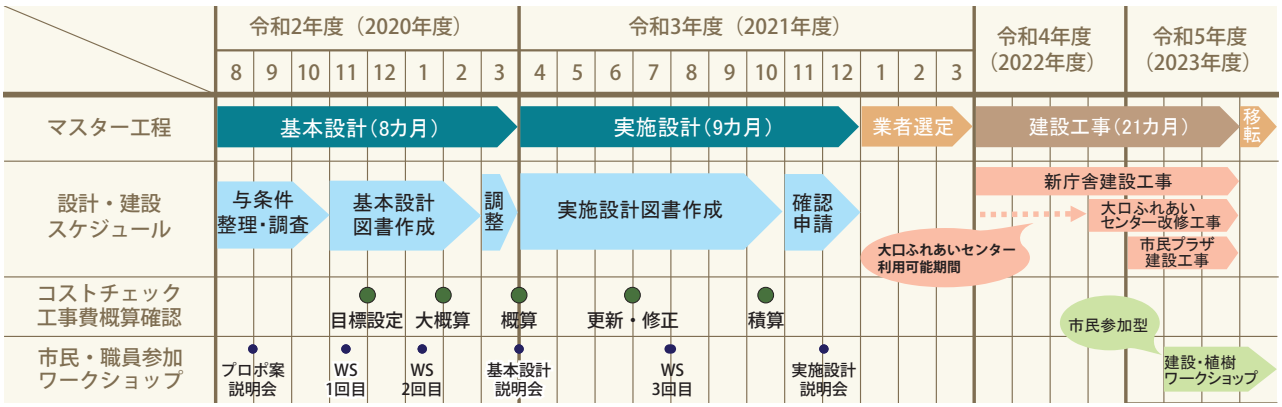
■地域の環境ポテンシャルを積極的に利用

地元業者にヒアリングをかけ、適材適所に地域産材を積極的に利用することで、地域活性化を促します。
自然エネルギーを活用し、ライフサイクルコストを抑制します。

設計工程を含む事業全体のスケジュール

■初期段階で懸案事項を徹底的に精査する設計工程

基本設計の最初に与条件整理を念入りに行い、市民や職員の声を初期段階から反映させることで相互理解を深め、スムーズな実施設計への移行が可能となります。

■効率的な建設スケジュールと市民参加

大口ふれあいセンター改修工事と新庁舎新築工事にタイムラグを持たせることで工事中でも既存機能を利用できます。また、市民参加の植樹ワークショップを行い、建設後も愛着のわく親しみやすい庁舎を目指します。